

前奏 黙想	祈 禱
讚美歌 120 いざうたえ友よ	讚美歌 408 えまいも涙も
祈 禱	献 金
信仰告白 使徒信条 566	讚 詠 547 いまささぐるそなえものを
聖 書 ホセア書 11:1~4	黙 禱
マタイによる福音書 2:19~23	主の祈り 564
讚美歌 115 ああベツレヘムよ	頌 栄 544 あまつみたみも
説 教 『イエス以上に愛されている私』	祝 禱 後 奏

父となった実直な大工ヨセフ。彼は幼子イエスがどういう生涯を送るのか知らずに消えた。母マリアは少なくとも聖霊降臨まで生き(使徒 1:14)、辛くても納得でき誇りも得られただろう。ヨセフはただ夢で見ただけの天使の言葉に従い(マタイ 1:20,2:13)、マリアと幼子イエスを連れて苦しい旅をした。

エジプトからの帰国も、夢での天使の御告げ。「起きて、子供とその母親を連れ、イスラエルの地に行きなさい。この子の命をねらっていた者どもは、死んでしまった(2:20)」。ところが帰郷しても危険な状態は変わらず(2:22)、夢で天使に指示されガリラヤの「ナザレという町に行って住んだ(2:23)」。

当時、イスラエルで迫害された人たちが、エジプトへ逃亡することはままあったようだ。そのルートは、ベツレヘムやエルサレムから西へ行き、地中海沿いの古い町ガザを南下してエジプトへ逃れる。そして帰郷する時はその逆。クリスマスに仕えたヨセフ一家は、そんな苦しい旅の空の下にあったが、北方のガリラヤに移住してようやく平穏な日々を送るようになる。マタイ福音書の記述では、幼子イエスと母マリアの姿は輪郭だけだが、敬虔で無口な職人ヨセフの表情や姿がありありと想像される。

クリスマスが過ぎて改めて考えるのだが、なぜ救い主の降誕にこれほどまでの苦難が生じるのか。ベツレヘムと周辺一帯の二歳以下の男児がことごとく殺されたのは(2:16)、幼子イエスがかろうじて生き伸びて十字架にかかるためだったのか。ヨセフ一家に苦しい旅をさせ、やがてイエスも十字架で殺されることになるとは、一連の悲惨な出来事は何のためだったのか。ここから何が聞こえて来るか。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで永遠の命を得るためである(ヨハネ 3:16)」。「神は独り子を世にお遣わしになった。その方によって、わたしたちが生きるようになるために。ここに、神の愛がわたしたちの内に示された(Iヨハネ 4:9)」。

クリスマスが起ったのは、ひとえに神が世と人間を愛し、「独り子」を十字架につけてまで私たちを救おうとされたから。「信じる者が一人も滅びないで」とは「信じるならば」という条件ではない。何としてでも独り子を受け入れてほしい、という神の悲壮な決意だ。神の全能をもってすれば四の五の言わず「信じさせる」ことはできよう。圧倒的な力を見せつけて屈服させることもできる。だがそれでは、愛されている私たちの主体性はない。欠け多き私たちの決断ではない。一人ひとりの異なる人生の、一人ひとりのかけがえなさで降誕を受け入れ、永遠の命をいただく(ヨハネ 3:16)ために、だ。

「世に遣わされた独り子によって、わたしたちが生きるようになる(Iヨハネ 4:9)」。これはどういう意味か。私たちはこのままでは生きていないのか。「まだ幼かったイスラエルをわたしは愛した。エジプトから彼を呼び出し、わが子とした(ホセア 11:1)」。遠い昔の、出エジプトの出来事を語っているのだが、幼子イエスの帰郷も民の歴史をなぞるように起こった。そして「生きる」とは次のようなこと。

「わたしは人間の綱、愛のきずなで彼らを導き、彼らの顎から軛を取り去り、身をかがめて食べさせた(11:4)」。愛によって一人ひとりの「軛」は取り去られ、自由になり、一人ひとりが自分の姿として生きる。神が「身をかがめて食べさせてくれるほど」私たちは愛されている。地上に独り子を送り、その独り子を十字架で犠牲にしてまで、神は私たちをとてつもなく愛して下さっている(ヨハネ 3:16)。

神の愛ゆえの御降誕であった 愛は神の痛みで成り立っている 神の近くにいるとその痛みを被る痛みと弱さで降誕に出会う 弱く自由な姿はなんという幸いだろう 神の愛が実感できるのだから

今日は大晦日、今年最後の礼拝です。「あけましたら、あめでどうぞございます」。2024年1/7の礼拝後、役員会がありカレーの日です。1/10(水)1:00~3:00 教会カフェ。1/13(土)1:30~3:00 聖研です。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。